

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32101302	
事務事業名	歴史民俗博物館管理事業（博物館収蔵品整理作業含む。）	
予算書の事務事業名	1. 歴史民俗博物館管理費	
事業期間	開始年度 昭和48年	終了年度 当面継続
実施方法	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	塩田 明弘	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担うづくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100509
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	9. 文化費	

◆事業目的・概要（どのような事業か） 博物館の維持管理や展示・普及活動。また館収蔵品の整理台帳を継続して作成、収蔵品の適切な管理及び活用を行う。		単位	実績		計画			
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 博物館施設及び館収蔵品、市民	① 博物館収蔵品	件	3,291	3,423	3,500	3,600	3,700
		② 博物館管理対象施設	棟	3	3	3	3	3
		③ 見学者・普及活動参加者	人	13,301	4,495	4,500	4,500	4,500
手段	<平成22年度の主な活動内容> 市直営のため、維持管理とそれに付随する事務作業。館内展示品修繕等、考古学教室開催による普及活動、館収蔵品について個々の整理番号や名称を台帳やラベルに記入しデータの作成を行う。	① 確認した収蔵品	件	3,291	3,423	3,500	3,600	3,700
	*平成23年度の変更点 給水ユニットや屋根など従来より額の大きな修繕を実施	② 保守・修繕を行った箇所	件	6	6	5	5	5
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 博物館施設の継続的運営。館で所蔵する資料は、従来までは館内にどのようなものがどこにあるのかははっきりしていなかったが、収蔵品の状態や収蔵先、数量などが把握できるようになった。	① 不明	不明	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すすがた> 郷土の歴史、伝統、自然に育まれた特徴的な文化が普及しています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者に対するアンケートの実施						
◆この事務事業開始のきっかけ（何年頃）からどのようなきっかけで始まったか 昭和48年の開館から。また開館当初は収蔵品の整理作業などが行われていたようであるが、年月が経過し、寄贈品が蓄積していったが収蔵データの不備が目立つことから、全収蔵品に対する再整理作業を行うこととした。			財源内訳	(千円)	0	0	0	0
			(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0
			(2)地方債	(千円)	0	0	0	0
			(3)その他（使用料・手数料等）	(千円)	0	14	44	22
			(4)一般財源	(千円)	7,652	7,941	10,927	10,000
			A. 予算（決算）額(1)～(4)の合計	(千円)	7,652	7,955	10,971	10,022
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化（法改正、規制緩和、社会情勢の変化など） 部分的な民間委託。指定管理者制度は時期尚早として、平成18年度より直営に見直す。また平成13年度から入館料無料化。			①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	3	3
			②事務事業の年間所要時間	(時間)	920	400	400	400
			B. 人件費（②×人件費単価/1,000）	(千円)	3,869	1,682	1,682	1,682
			事務事業に係る総費用（A+B）	(千円)	11,521	9,637	12,653	11,704
			(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見（担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入） 市民から歴史民俗博物館の場所が、市街地から遠く、公共交通の便もなく不便。			◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
			● 把握している	博物館年報、紀要の発行。普及活動の実施。博物館所蔵品目録などの刊行物による				
			○ 把握していない					

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 この結果博物館の管理運営が適切に行われた。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。普及活動は内容により参加者増が見込める。収蔵品整理は館にどのような資料があるのかを公開し、情報の共有化を図ることできる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 館の維持管理は最低限の人員と予算で行っており、向上の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人材の中で業務を行い、別事業費からも人件費を補填している状況である。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 博物館教室では材料費を受講者が負担している。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 県内の歴史系の博物館は有料、無料はほぼ半々。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	必要箇所の修繕、普及活動の実施、登録物件の整理作業の継続とデータ点検作業の実施。「魚津の水循環」の普及啓発活動を引き続き実施。
	中・長期的 (3～5年間)	常設展の展示替え、施設老朽化や耐震などを考慮したりリニューアル。登録別件のデータ公開や図録刊行、過去の所蔵台帳との照合作業が必要。
		コストの方向性
		増加
		成果の方向性
		維持

★課長総括評価 (一次評価)

今、収蔵品をデータ化しているだけだが、使用目的の分からなくなっている収蔵品もあるので、古老の協力を求め明らかにする必要がある。また、整理の終わっている未展示の収蔵品も多くあるので、年次計画を持って企画展で紹介する。平成20年度から実施している収蔵品を利用した出前講座は、社会科の教員退職者が臨時職員であることから可能になっている。今後出前講座は推進する。	二次評価の要否 不要
---	-------------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32102301	
事務事業名	歴史民俗博物館企画展事業	
予算書の事務事業名	2. 歴史民俗博物館企画展事業	
事業期間	開始年度	昭和62年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030200
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	文化係	
記入者氏名	的場 茂晃	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100509
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	9. 文化費	

◆事業目的・概要 (どのような事業か)				実績			計画			
常設展示とは別に、テーマを設けて展示を行う企画展を開館期間中1回実施した。				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民、県内外観光客	➡	① 市民	人	45,562	45,121	44,692	45,000	45,000	
	②									
	③									
手段	<平成22年度の主な活動内容> 奈良・平安時代の社会と暮らし展を6月4日から11月14日まで開催。 *平成23年度の変更点 古代のリサイクルに関する特別展と水循環に関する特別展を開催する。	➡	① 企画展の入館者数	人	5,981	1,643	2,000	2,000	2,000	
	②									
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 展示会を実施することで、地元魚津の歴史や今も伝わる貴重な文化財を知ることができる。	➡	① 企画展の入館者数/市民	人	0.13	0.04	0.04	0.04	0.04	
	② まちづくり市民意識調査 郷土の歴史や伝統などが継承され、自然に育まれた文化が豊かである。		%	39.00	37.80	39.00	41.00	43.00		
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 郷土の歴史、伝統、自然に育まれた特徴的な文化が普及しています。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 企画展に関する入館者を対象にしたアンケート							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和62年吉田記念郷土館が開館し、従来の常設展示以外に、特別展示室が設けられたことから、以後年3～4回の企画展が実施されてきた。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
				(4)一般財源	(千円)	472	214	1,053	1,000	1,000
				A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計)	(千円)	320	214	1,053	1,000	1,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 指定管理者制度による博物館運営の民間委託など。以前管理業務の民間委託を実施していたが、現在は直営としている。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	4	4	3	3	3
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	490	420	420	420	420
				B. 人件費(②×人件費単価/1,000)	(千円)	2,060	1,766	1,766	1,766	1,766
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	2,380	1,980	2,819	2,766	2,766
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) 魚津が生んだ偉人の紹介をしてほしい。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	展示会図録や展示会開催のポスターなど					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 開催により市内の歴史や文化財を紹介できた。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 展示会の見学会の開催や解説資料の作成、広報活動の充実。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 事業費はポスターなどの印刷製本費が大半を占めこれ以上の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現時点で最低限の人員しかおらずできない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 平成12年度までは入館料を徴収。広く市民に魚津の歴史を伝えるために無料化を実施。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 県内他市の郷土博物館は、無料の施設と有料の施設がある。本施設の場合、広く市民に歴史や文化を紹介する目的で、入館料を無料にしている。今後、常設展示は、無料を続けるが、企画展については内容によって、有料化も考慮できる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	展示会は長期間の開催であり、開催回数・期間を次年度より見直す。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	博物館収蔵資料のうち、公開していないものや未調査なものを調査研究し、順次公開していく。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

専任の学芸員がいない博物館であるが、できるだけ未展示の収蔵品を展示する企画を考える。また、市民の関心の集まるような話題性のある展示にする。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	61230012	
事務事業名	水族博物館一般管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	008010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
水族博物館の施設の維持管理と運営。修繕は除く。				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①水族博物館の施設 ②県内外の入館者 (市民を含む)	→	対象指標	① 年間入館者数	人	154,417	134,377	145,000	145,000	145,000
	② 水族博物館施設			式	1	1	1	1	1	
	③									
手段	<平成22年度の主な活動内容> 水族博物館の施設の維持管理と運営 委託業務の一部見直し *平成23年度の変更点 変更なし	→	活動指標	① 入場料その他の収入	千円	78,936	64,216	70,114	70,114	70,114
	②			契約						
	③			千円						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①入館者が不都合や不快感を感じることなく、水族博物館で過ごすことができる。 ②施設の不具合を早期発見し、対応することができる。③入館者が増加する。	→	成果指標	① 本年度の入館者数/前年度の入館者数	%	106.86	87.02	107.91	100.00	100.00
	② 入場料その他の収入/歳出合計			%	51.97	40.73	40.53	40.00	40.00	
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館、埋没林博物館、歴史民俗博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	93,757	97,844	97,853	98,000	98,000
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	93,757	97,844	97,853	98,000	98,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
①施設の老朽化 ②入館者の減少 ③近県に大型の水族館や動物園などの施設ができた。 ④余暇の過ごし方の多様化。 ⑤委託業務内容の変化 ⑥諸経費の高騰 ⑦施設整備に伴う地方債の償還				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	7,569	7,569	7,569	7,569	7,569
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	101,326	105,413	105,422	105,569	105,569
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：入館者増、高齢者割引の設定 隣売店：外部施設の充実 市民：特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input type="radio"/> 把握している	→	県内他市に比較できる水族館がない。				
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 入館者にとって快適な施設の状態を維持することで、入館者 (リピーター) の増加と学習意欲の向上が期待できる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 施設の充実と接客の充実により成果向上が見込める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より顧客ニーズに合ったサービスの提供が可能になり、効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 多様化するお客様からの問合せや要望、老朽化した施設設備の不具合などに適切に対応し、サービスの維持向上を図るためにはこれ以上削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり	説明 入場料 (団体割引制度や入館者斡旋契約等) 及び減免制度に見直しの余地がある。
適正化の余地あり	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 入館料は、昭和56年の開館以来、消費税分を値上げしただけである。平成21年度より土日祝日の中学生以下の入館料を有料とし、市内在住の中学生以下は全開館日の入館料を無料にした。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

魚津水族館のあり方を、見直す時期に来ている。博物館としての活動と、観光施設としての位置づけが、魚津市として曖昧になっている。平成25年度の100周年に向け、方向性を明確にすることや、料金体系を含めた運営の見直しも必要である。さらに、100周年後の魚津水族館の存続についても、検討を始める時期に来ている。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	61230012	
事務事業名	水族博物館施設管理事業	
予算書の事業名	2. 一般管理費	
事業期間	開始年度	昭和56年
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	008010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
水族博物館施設の維持・管理する事業				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	対象指標	① 当初修繕予算	千円	3,100	3,300	4,250	4,500	4,750
	②									
	③									
手段	<平成22年度の主な活動内容> 水族博物館の施設・設備の修繕の実施 授乳室の設置 主要ガラス部分の強化 *平成23年度の変更点 授乳室は終了	→	活動指標	① 実施した修繕の総件数	件	48	48	45	40	40
	② 修繕に要した費用			千円	3,295	5,293	4,250	4,500	4,750	
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	成果指標	① 修繕件数の前年対比	%	100.00	100.00	93.75	88.89	100.00
	② 修繕に要した費用/前年度の修繕に要した費用			%	67.84	160.64	80.29	100.00	100.00	
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> より魅力ある水族博物館、埋没林博物館、歴史民俗博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和56年の水族博物館の開館に伴って開始。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	3,295	5,293	4,250	4,500	4,750
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	3,295	5,293	4,250	4,500	4,750
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
開館以来29年が経過し、施設・設備の老朽化に伴い、修繕費が増大している。また、当初計画をしていない突発的な修繕が多くなってきており、職員等で小修繕を行っているものの、当初予定していた修繕を先送りしたり、補正予算を計上せざるえない。今後も修繕費の増加が見込まれるので、抜本的な修繕計画が必要である。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	980	980	980	980	980
				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	4,121	4,121	4,121	4,121	4,121
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	7,416	9,414	8,371	8,621	8,871
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民:授乳室の設置要望。安全対策の向上要望。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input type="radio"/> 把握している	→	県内他市に比較できる水族館がない。				
				<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の適切な維持・管理は、当館での生涯学習の推進に直結するため必要性が高い。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直し場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 修繕計画の策定と適切な実施により、施設の基本的機能を維持できる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 施設整備事業と連携することで、より効率的な維持管理を行えるなど効果が高まる可能性がある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 施設の老朽化に伴い、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 人件費を削減するとその分、日頃のメンテナンスに関する時間が減少し、事業費が増大する。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地あり	説明 業務内容の見直しで、適正化できる可能性はある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 修繕工事費の増加が入館料に反映されていないので、今後も受益者負担は少ない。現状では、機会を捉えた入館料の値上げも検討に入るべきである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input checked="" type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input checked="" type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低いだが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成25年の開館100周年に向けて、計画策定した修繕内容を遅滞なく実施する。 コストの方向性 増加
	中・長期的 (3～5年間)	計画的な修繕・改修を行うことで、一時的にはコスト増になるが、長期的には良好な施設状態になることでコストダウンが見込まれる。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

老朽化に伴う修繕などの増加は、随時、生じてくる。そのつど、優先順位をつけながら、対応していく。100周年に向かっては、改修事業と調整ながら、効率的に事業を推進する。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	61230011				
事務事業名	水族博物館ホームページ運用事務				
予算書の事業名	3.博物館事業				
事業期間	開始年度	平成10年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				
	6. ソフト事業				

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	008010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
インターネット・ホームページを利用した情報発信による入館者増				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	➡	① ホームページアクセス数	回	122,837	126,816	127,000	130,000	130,000	
	② 年間入館者数		人	154,417	134,377	145,000	145,000	145,000		
	③									
手段	<平成22年度の主な活動内容> ホームページを使った、イベント案内・利用案内。ホームページに寄せられた質問に対する回答。携帯電話用のホームページの配信。法人サポーターのページの開設。飼育係からの話題提供。	➡	① ホームページ更新回数	回	260	190	200	210	220	
	*平成23年度の変更点 変更無し		②							
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	➡	① アクセス数の前年対比	%	107.91	103.24	100.15	102.36	100.00	
	①対象者の魚津水族館に関する興味を増加させ、来館を促す。 ②魚津水族館に興味があるが、来館に至らない対象者を来館へつなげる。		② 入館者の前年対比	%	106.86	87.02	107.90	100.00	100.00	
	③									
その結果	<施策の目指すすがた> 観光情報が効果的に発信され、全国各地から多くの人々が訪れています。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成10年。多くの水族館や動物園などの施設でホームページが開設され、旅行雑誌と並んでホームページから情報を得ようとする人が増えたから。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	294	294	298	298	298	
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	294	294	298	298	298	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
平成16年にホームページをリニューアルし、ライブカメラを設置した。(現在は故障中) 家庭への高速インターネットの急速な普及により、益々情報発信源としてのホームページの重要性が増している。また、携帯端末サイトで情報を得ている人も増加している。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	160	160	160	160	160
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	673	673	673	673	673
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	967	967	971	971	971
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民：内容の更新を頻繁に行って欲しい。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している	比較できる同様の施設がない。 しかし、県内の動植物園もホームページは開設している。					
				○ 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 ホームページは、タイムリーな情報を全国の方に提供できるので、魚津市への観光客誘致に対する貢献度は高い。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 当館の展示や活動などに興味を持ってもらいやすくなるようなページレイアウト、コンテンツの精査・充実、動画配信など、成果の向上の余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある事務事業として、広告宣伝事業があげられる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 使用機器の定期的な見直しによる余地はあるものの、新たな内容構成の作成や構成の見直しは、外注をすることになり、事業費が増大する。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 発信情報の更新やコンテンツの充実が、サイト訪問者の増加につながるため、業務時間は増える。(ただし、一定以上のHTML運用スキルを職員に対し義務化するのであれば改善の余地はある)

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地あり	説明 一般的には、ホームページの運用自体は情報の発信手段であり、特定の受益者はいない。ただし、関連事業の法人サポーター制度は、導入にあたり受益者負担を求めており、さらなるサポーターの増に向けて協賛金額設定の見直しやサポートに対するフォローなどの導入を検討していく余地はある。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 法人サポーター制度については参加法人の増加を図ることにより、水族館としての受益者負担額を増加することができる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成21年度で行った、ホームページの充実の結果を観察する。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	平成25年の開館100周年に向けて、ホームページ内での展示魚類の解説の増加などを行い、利便性の向上を図る。 成果の方向性 向上

★課長総括評価(一次評価)

ホームページは、携帯電話のスマートフォン化が進む中で、より重要性を増している。来館意欲を掻き立てるような内容の検と、発信方法については、専門家の協力も必要である。100周年に向けて、改訂も検討課題である。	二次評価の要否 不要
--	-------------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	61230013	
事務事業名	水族博物館施設整備事業	
予算書の事業名	7.施設整備事業	
事業期間	開始年度	平成20年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	小林芳久	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	008010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か) 海洋水槽への水中会話設備の導入 魚津水族館開館100周年に向けた事業計画の作成 事業計画に基づく当館施設の修繕やリニューアルの実施	単位	実績		計画				
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
対象 (この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ①入館者 ②魚津水族館館内設備	対 象 指 標	① 年間入館者数 ② 対象設備 (水族館設備) ③	人 式	154,417 1	134,377 1	145,000 1	145,000 1	145,000 1
手段 <平成22年度の主な活動内容> ①海洋水槽魚類解説設備設置工事 ②魚津水族館開館100周年事業策定調査 *平成23年度の変更点 ①魚津水族館開館100周年事業計画に基づく計画的な修繕とリニューアルを行う	活 動 指 標	① 事業計画に基づく各種工事 ② ③	式	0	1	1	1	1
意 図 (この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①海洋水槽でダイバーが来館者に水槽や展示魚類の説明を行うことで来館者の満足度が上がる。 ②開館から100周年となる平成25年9月に向けて、魚津水族館で実施する事業を策定し、計画的に改修を行うことで、よりよい施設の運営・管理をめざす。 ③効果的な改修を行い、今後10年にわたっての安定運営を図る。	成 果 指 標	① 入館者の前年対比 ② ③	%	106.86	87.02	107.91	100.00	100.00
そ の 結 果 <施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館、埋没林博物館、歴史民俗博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入 入館者の満足度については、今後、アンケート調査を行う。							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成12年度頃から、海洋水槽の老朽化が目立ちはじめた。平成20年度に開始した。また、現水族館設備は開館から29年を経過し、全体的に老朽化が激しくなっている。	財 源 内 訳	(1)国・県支出金 (千円) (2)地方債 (千円) (3)その他(使用料・手数料等) (千円) (4)一般財源 (千円) A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)		0 0 56,634 0 56,634	0 0 30,655 0 30,655	0 0 14,070 0 14,070	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) ①近隣の水族館、動物園、博物館のリニューアルや施設の増設。 ②来館者のニーズの多様化 ③現水族館設備は、改修を行わないと早期に大きな故障を生じる可能性が極めて高い。		①事務事業に携わる正規職員数 (人) ②事務事業の年間所要時間 (時間) B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円) 事務事業に係る総費用 (A+B) (千円) (参考) 人件費単価 (円/時間)		3 700 2,944 59,578 4,205	3 700 2,944 33,599 4,205	4 1,200 5,046 19,116 4,205	4 1,200 5,046 5,046 4,205	4 1,200 5,046 5,046 4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：リニューアルに際しての県費補助の獲得。	◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 富山県内に同様施設を持つ施設がない。						
	<input checked="" type="radio"/> 把握している <input type="radio"/> 把握していない							

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 生涯学習施設として、施設の抱える問題点や改善策を実施し、良好な状態に維持管理する必要度は高い。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 今後、導入した設備をうまく活用することでの成果向上の余地はある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 平成25年度までは、継続して事業費が必要。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 工事の発注関係の業務、事業計画策定のための事務・打合せが主になるため削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 通常イベントを行うための設備の導入や将来的な水族館管理運営の適正化を図る事業であり、特定の受益者はいない。
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 来館者を特定受益者とはみなしにくいですが、今後は、設備の新設または改修の機会を捉えて入館料の引き上げを検討すべきである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低いですが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度（平成24年度）	平成25年の開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 コストの方向性 増加
	中・長期的（3～5年間）	開館100周年に向けて、計画的な修繕とリニューアルを行う。 成果の方向性 向上

★課長総括評価（一次評価）

100周年に向けての改修工事は、効率的に計画し、実施しなければ、対応しきれない。修繕工事や、他のソフト事業とも併せて、効率的かつ有効的に行うことが必須である。また、100周年記念事業や、その後の市民参加型の水族館運営のために、人員増が必要であろう。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	61230011				
事務事業名	水族博物館事業				
予算書の事業名	3.博物館事業				
事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	6. ソフト事業				
	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09070100
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	008010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関わること				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	対象指標	① 常設展示生物種数	種	333	369	400	400	400
	② 年間入館者数			人	154,417	134,377	145,000	145,000	145,000	
	③									
手段	<平成22年度の主な活動内容>	→	活動指標	① 展示生物数	点	13,653	11,230	15,000	15,000	15,000
	② 展示生物購入金額			千円	2,800	2,750	2,800	2,800	2,800	
	③ 普及活動参加人数			人	5,394	7,246	5,500	5,500	5,500	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	成果指標	① 本年度の展示生物数/前年度の展示生物数	%	100.00	110.80	100.00	100.00	100.00
	② 展示生物購入金額/博物館事業費			%	35.75	36.18	35.75	35.75	35.75	
	③									
その結果	<施策の目指すがた> より魅力ある水族博物館、埋没林博物館、歴史民俗博物館を目指して、企画や展示の充実と施設設備の整備が行われています。また、アウトリーチ活動やITを活用するなど積極的な情報発信が行われています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 対象年の一府八県連合共進会の第2会場として初代魚津水族館が開館。昭和29年に富山産業博覧会の魚津会場として2代目が建設され、昭和56年に現在の三代目が開館した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	7,030	7,600	9,345	9,345	9,345
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	7,030	7,600	9,345	9,345	9,345
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	1	1	2	3	3
① 施設老朽化 ② 近隣の水族館、博物館の増設やリニューアル ③ 少子化				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,000	500	1,000	1,500	1,500
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	4,205	2,103	4,205	6,308	6,308
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	11,235	9,703	13,550	15,653	15,653
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：入館者増。ペンギン展示の工夫				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	比較できる施設が他にない					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	水族館を通して水生生物に興味ที่わき、学習意欲が促進され、生涯学習が推進できる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	適切

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	職員の調査研究や技術の向上に伴い、成果は上がると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	市内の博物館と連携をとることで展示・集客効果が高まる可能性はある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	事業費は展示生物や普及活動にかかるもので、削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	職員は、交代勤務であり半数しか常時勤務していない。展示水槽の維持管理・普及活動のことを考えると人員削減は入館者および市民サービスに影響が出てくるので削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	当館は市で運営しているため、他の市町村と区別して、市民に還元する必要がある。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	市民へのフィードバックは今後、より一層必要となる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

魚津水族博物館の中心的な事業で、テーマに沿った展示や、特徴的な「ホタルイカ・発光生物」「深海生物」「希少生物」など、個別のテーマや、水槽展示のテーマを設定し、観客に何を伝えたいのか、積極的に発信性のある展示を行う必要がある。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301209	部・課・係名等	コード1	09060100	政策体系上の位置付け	コード2	612003	予算科目	コード3	001100504	
事務事業名	埋没林博物館一般管理事業		部名等	(教育機関)	政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり		会計	一般会計		
予算書の事業名	2.埋没林一般管理事業		課名等	埋没林博物館	政策名	1 明日を担う人づくり		款	10. 教育費		
事業期間	開始年度	昭和30年度頃	終了年度	当面継続	業務分類	1. 施設管理		項	5. 社会教育費		
実施方法	○ 1. 指定管理者代行		○ 2. アウトソーシング		○ 3. 負担金・補助金		● 4. 市直営		目	4. 埋没林博物館費	
		記入者氏名	石須 秀知		区分	なし		基本事業名	博物館の充実		
		電話番号	0765-22-1049								

◆事業概要 (どのような事業か)		埋没林博物館を適正に維持管理し運営していくため、入館料等の収納業務や施設維持管理のための契約や支払い、清掃保守点検等業務を行う。		単位	実績		計画			
					21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	➡	① 敷地面積	m ²	16,336	16,336	16,336	16,336	16,336	
	(1) 埋没林博物館施設		② 施設・設備修繕必要件数	件	22	18	20	22	30	
	(2) 入館者		③							
手段	<平成22年度の主な活動内容> 入館者への受付案内業務、入館料等の収納業務、施設維持管理のための契約、支払い業務、修繕箇所の補修	➡	① 施設・設備修繕実施件数	件	15	7	5	5	30	
	*平成23年度の変更点 平成23年度を初年度とする第4次総合計画により、平成25年度から3年間で大規模修繕を実施することが決定、修繕計画の策定を行う。		② 施設修繕費用	円	1,527,600	2,922,586	1,000,000	1,000,000	5,000,000	
			③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 埋没林博物館施設を適正にかつ効率よく維持管理し、入館者の満足度を上げる。	➡	① 修繕実施件数/修繕必要件数	%	68.18	38.89	25.00	22.72	100.00	
			② 本年度修繕費用/昨年度修繕費用	%	75.74	191.32	34.22	100.00	500.00	
			③							
その結果	<施策の目指すがた> 施設の機能性、利便性、安全性が高まり、生涯学習機能が向上するとともに、入館者が増加することで、経済効果を生み地域活性化につながる。また、景観の保全にもつながる。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年の埋没林博物館開設に伴い実施				財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
					②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
					③その他(使用料・手数料等) (千円)	18,388	14,885	20,305	20,000	20,000
					④一般財源 (千円)	26,424	31,336	18,120	25,000	30,000
					A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	44,812	46,221	38,425	45,000	50,000
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 施設をリニューアルして18年が経過し、施設建物や機械設備等が破損、老朽化し、その維持修繕等が大きな課題となっている。					①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	3	3	3
					②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,200	1,000	1,000	1,000	1,000
					B. 人件費(②×人件費単価/千円) (千円)	5,046	4,205	4,205	4,205	4,205
					事務事業に係る総費用(A+B) (千円)	49,858	50,426	42,630	49,205	54,205
					(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 計画的な施設設備等の修繕				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				○ 把握している	各施設の内容・規模等により、事業の実施状況が異なるため。					
				● 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 施設の機能性、利便性、安全性が維持・向上すれば、学習機能が高まるとともに、入館者が増加し経済効果を生み地域活性化につながる。また、施設そのものが、魚津港周辺の景観の一部となっているので、景観の保全にもつながる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入 博物館法 (昭和26年法律第285号) 魚津市立博物館条例 (平成3年魚津市条例23号)	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 施設整備の老朽化により、修繕費が増加しているが、大規模修繕計画の実施により、維持経費や修繕費の削減につながる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 経費の削減に努めてきたが、修繕料の増大により削減は困難である。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員運営を行っており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 利用者は、現施設の運営・維持管理費等を考慮した入館料を負担している。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 現状の施設内容や近隣博物館との比較からも平均的なものである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施		
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携		
<input type="radio"/> 目的見直し		
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	コストの方向性 増加
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

突発的な故障や落雷などやむをえない修繕は発生したが、経費の削減に努めるとともに、効率のよい事業運営を行った。	二次評価の要否 不要
--	---------------

○低い

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301210	
事務事業名	蜃気楼ネットワーク事業	
予算書の事業名	蜃気楼ネットワーク事業	
事業期間	開始年度	平成15年度
	終了年度	当継続
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か) 市の観光資源の1つである「蜃気楼」に関する情報の集約、情報交流、発生メカニズムの解明、一般市民への知識の普及を目指す事業		単位	実績		計画			
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか、※人や物、自然資源など) 蜃気楼に何らかのつながりを持つ人、情報及び魚津市民	① 関係団体会員数	人	71	71	75	80	85
		② 魚津市人口	人	45,562	45,176	45,000	45,000	45,000
		③						
手段	<平成22年度の主な活動内容> 蜃気楼交流会の開催、日本蜃気楼協議会と連携した事業の検討 *平成23年度の変更点 変更なし	① 研究発表件数	件	12	8	10	10	10
		② 記録誌発布件数	件	150	150	150	150	150
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 蜃気楼に関する人、情報等の交流を促進する。	① 聴講者	人	35.00	34.00	50.00	50.00	50.00
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すがた> 蜃気楼の中心地としての魚津市の存在意義を高め、それを担う社会教育施設として博物館の機能を充実させる。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年の博物館リニューアルを契機に、蜃気楼も大きな事業の1つになった。 平成14年の市制50周年記念事業「蜃気楼フォーラム」を発端とし、翌年、全国の蜃気楼関係者が集う「蜃気楼交流会」を開催した。		財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
			②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0
			④一般財源 (千円)	166	151	169	170	170
			A. 予算(決算)額(①～④の合計) (千円)	166	151	169	170	170
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 蜃気楼に対する関心が高まり、博物館に寄せられる質問等も年々増加・専門化している。 交流会の集まりの中から、「蜃気楼連絡協議会」が発足し、「日本蜃気楼協議会」へ発展。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2	2
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	500	260	300	300	300
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	2,103	1,093	1,262	1,262	1,262
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	2,269	1,244	1,431	1,432	1,432
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 日本蜃気楼協議会からは、普及活動的な内容を検討し相互協力して行きたいとの意見。		◆県内他市の実施状況	<input checked="" type="radio"/> 把握している <input type="radio"/> 把握していない					(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) この事業は当市独自の事業であり、他市において類似事業及び調査等はされていない。

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 全国の歴史館の情報が集まる博物館としての機能を充実させるのに不可欠の事業である。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 市民に呼びかける普及事業等を組み入れれば、目標参加者数50人を超えられる可能性がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者あり・負担なし	説明 現金取扱い時の事故の可能性や、有料化による参加者減少の恐れなどのリスクに対し、予算規模が小さいため有料化で期待される効果が小さい。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 他市にない事業で比較困難であるが、博物館等での講演会などは無料のケースが多く、現状で妥当と思われる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施		年度
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★ 改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）

実施予定時期	次年度（平成24年度）	一般参加者が楽しめるような内容を付加。（日本歴史館協議会と連携を強化）	コストと成果の方向性
			コストの方向性
			維持
	中・長期的（3～5年間）	データベースの整備など歴史館に関する情報の中心としての機能を補強し、市内外の認知度を高める。	成果の方向性
			向上

★ 課長総括評価（一次評価）

全国の歴史館関係者を結ぶ役割において、博物館が担うべき重要な事業であると考えられる。関係団体などとの協力関係を築きながら継続していく。	二次評価の要否
	不要

○低い

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301306				
事務事業名	博物館教室事業				
予算書の事業名	博物館教室事業				
事業期間	開始年度	平成5年度	終了年度	当面継続	業務分類
					6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か) 主として魚津市民に対し、郷土の自然とのふれあいを通して、その重要性や意義への理解を深めることを目的として講座を主催する。		単位	実績		計画				
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか、※人や物、自然資源など) 魚津市民、魚津市の自然等に興味のある人(市民以外を含む)	① 魚津市の人口	人	45,562	45,176	45,000	45,000	45,000	
		②							
		③							
手段	<平成22年度の主な活動内容> 講座「ふれあい学習会」として、「食べられる草ど〜れだ」「四つ葉のクローバー〜つけた」「自由研究相談室」「洞杉・蛇石ウォーキング」「野草でチャチャチャ」「つるつるつくる」「冬の曇気楼ウォッチング(×3回)」を開催 *平成23年度の変更点 従来の野外実施分を企画所管の「水の学び舎」へ振り替え、館内実施の講座主体とする。曇気楼の実験の実演・体験を中心とした学習会を6回、自由研究相談を1回、計7回計画。また学芸員増員に伴い、回数の増加などは柔軟に対応予定。	① ふれあい学習会開催回数	回	9	9	7	10	12	
		②							
		③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 魚津市の自然に興味を持ち接する機会を持ってもらう。	① 延べ参加者数	人	111	129	140	200	240	
		②							
		③							
その結果	<施策の目指すがた> 市民に魚津市の自然や、博物館活動への理解を深めてもらい、生涯学習・社会教育施設としての役割を果たす。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4～5年ごろ、学校週5日制の導入に伴い、博物館教室開催のニーズが高まった。		財源内訳		(千円)	0	0	0	0	0
		①国・県支出金		(千円)	0	0	0	0	
		②地方債		(千円)	0	0	0	0	
		③その他(使用料・手数料等)		(千円)	0	0	0	0	
		④一般財源		(千円)	117	40	34	120	120
		A. 予算(決算)額(①～④の合計)		(千円)	117	40	34	120	120
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 学校の週5日制完全実施、総合学習等自発的学習時間の増、高齢者等の生涯学習ニーズの多様化 インターネット等による情報の増大		①事務事業に携わる正規職員数	(人)		2	2	2	2	
		②事務事業の年間所要時間	(時間)		500	240	300	500	
		B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)		2,103	1,009	1,262	2,103	
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)		2,220	1,049	1,296	2,223	
		(参考)人件費単価	(円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 参加者の意見(口頭)として ・魚津の自然が見られてよかった。 ・もう少し種類や回数を多くしてもよい。 ・無料なのはありがたい。 など		◆県内他市の実施状況			(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 他市の博物館でも、各種の博物館教室を開催している。				
		● 把握している	→						
		○ 把握していない							

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 郷土の自然や博物館を理解する人を増やすことは、生涯学習・社会教育の充実につながる。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 内容の改善、新たなプログラムの開発などでニーズを開拓し、募集人数に参加者数を近づける。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の事業費であり、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者あり・負担なし	説明 参加料の徴収、あるいは入館料を負担した利用者を対象にするなど適正な負担とする検討が必要だが、参加者には有料なら参加しないとの意見もある。
適正化の余地あり	
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 他市の博物館等の行事では、無料、有料が混在し、有料の場合も負担額は低い。今後、材料費程度の額での負担を検討したい。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施		年度
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★ 改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）

実施予定時期	次年度（平成24年度）	新たに配属された学芸員の特性を活かし、埋没林博物館のオリジナリティのある学習会内容を目指す。	コストと成果の方向性 コストの方向性
	中・長期的（3～5年間）	専門分野の異なる学芸員の協力によって内容を広げ、市民のニーズを掘り起こす。	成果の方向性 維持 向上

★ 課長総括評価（一次評価）

市民が自然科学等を楽しく学べる博物館教室の実施は、今後も必要と考える。市が掲げる「水循環」とも絡め、教室の新たな内容等を検討しながら、地道に行っていく。	二次評価の要否 不要
--	---------------

○低い

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301305	部・課・係名等	コード1	09060100	政策体系上の位置付け	コード2	612003	予算科目	コード3	001100504
事務事業名	調査研究事業	部名等	(教育機関)		政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	調査研究・展示事業	課名等	埋没林博物館		政策名	1 明日を担う人づくり		款	10. 教育費	
事業期間	開始年度 平成4年度 終了年度 当面臨続	係名等	管理係		施策名	2 生涯学習の推進		項	5. 社会教育費	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	記入者氏名	石須 秀知		区分	なし		目	4. 埋没林博物館費	
		電話番号	0765-22-1049		基本事業名	博物館の充実				

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
市内の自然(植物、地質、気象等)を調査研究、記録し、展示や教育普及活動に活用できる形にして公開し、資料や情報を後世へ伝える。				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	➡	① 魚津市の面積	km ²	200	200	200	200	200	
	魚津市の自然		②							
			③							
手段	<平成22年度の主な活動内容> 市内特に片貝川流域、角川流域の自然史資料に関する調査・資料収集・研究報告書、印刷物執筆、展示、講演等による調査研究成果の周知	➡	① 調査回数	回	15	20	40	50	50	
	*平成23年度の変更点 学芸員の増員による分野、フィールドの拡大と内容の充実。		② 新規収集資料数(画像ファイル等のデータ、写真等2次資料を含む)	点	430	400	500	500	500	
			③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 調査研究、資料収集により現況を明らかにし、展示、教育普及等の事業に活用できるようにする。	➡	① 報告書・出版物・外部執筆・講演等件数	件	22	12	20	25	30	
			② 収蔵資料総数(画像ファイル等のデータ、写真等の2次資料を含む)	点	9,972	10,300	10,800	11,300	11,800	
			③							
その結果	<施策の目指すがた> 博物館活動を通じて郷土の自然の姿を伝えることにより、社会教育施設としての機能を充実させる。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年専任学芸員の配置による				財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
					②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
					③その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0
					④一般財源 (千円)	675	651	818	900	900
					A. 予算(決算)額(①～④の合計) (千円)	675	651	818	900	900
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 洞杉の新聞等での紹介、片貝県定公園の指定等、魚津の自然の注目度の上昇 魚津市の地域資源として“水循環”が取り上げられる。 平成23年度に新規の学芸員採用					①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	1	2	2	2
					②事務事業の年間所要時間 (時間)	500	500	600	600	600
					B. 人件費(②×人件費単価/千円) (千円)	2,103	2,103	2,523	2,523	2,523
					事務事業に係る総費用(A+B) (千円)	2,778	2,754	3,341	3,423	3,423
					(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 調査研究の継続・充実に関しては、地元市議会議員等から定期的に要望されている。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している	他市においても、博物館の根幹的事業として調査研究が行われている。					
				○ 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かせない事業である。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 平成23年度の学芸員増員配置により成果向上が期待できる
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者なし・負担なし	説明 調査研究自体に特定の受益者は想定しにくい。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 他の博物館等でも状況はほぼ同じである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施		
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★ 改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）

		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度（平成24年度）	コストの方向性 維持
	中・長期的（3～5年間）	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価（一次評価）

市内及び近隣地域の自然を調査・研究することは、地域の自然系博物館としての努めであり、魚津の自然を未来に伝えるため、資料収集、調査を実施した。短期的に可視的な成果が上がる事業ではないが、継続していく必要がある。	二次評価の要否
	不要

○低い

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301305				
事務事業名	展示事業				
予算書の事業名	調査研究・展示事業				
事業期間	開始年度	平成4年度	終了年度	当面継続	業務分類
					6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	612003
政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり	
政策名	1 明日を担う人づくり	
施策名	2 生涯学習の推進	
区分	なし	
基本事業名	博物館の充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か) 調査研究の成果をもとに展示を発案・作成し、知識や情報を親しみやすい形で市民及び博物館利用者に提供する。		単位	実績		計画				
			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 企画展示内容及び展示物、魚津市民及び入館者	① 魚津市人口	人	45,562	45,176	45,000	45,000	45,000	
		② 入館者数	人	48,301	39,668	50,000	50,000	50,000	
		③							
手段	<平成22年度の主な活動内容> 「ぐるぐる展」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蟹気楼写真展」を実施 *平成23年度の変更点 「大正時代の蟹気楼展」、「魚津の水循環と植物」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蟹気楼写真展」を計画	① 企画展示開催件数	件	4	3	4	4	4	
		②							
		③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 企画・制作し、利用者の観覧に供する。	① 企画展示期間入館者数	人	47,239	34,954	48,000	48,000	48,000	
		②							
		③							
その結果	<施策の目指すがた> 市民等に魚津市の自然や、博物館活動の意義を伝え、社会教育施設としての機能充実に資する。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からのようなきっかけで始まったか) 平成4年のリニューアルにより、博物館や蟹気楼だけでなく、地域の自然全般を対象として展示の幅を広げる必要が生じた。		財源内訳	①国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
			②地方債	(千円)	0	0	0	0	0
			③その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
			④一般財源	(千円)	100	100	100	100	100
			A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	100	100	100	100	100
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 埋没林や蟹気楼だけでなく、洞杉等魚津の自然が学術的にも価値のあるものだという認識が定着してきた。			①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
			②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	400	500	500	500
			B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	2,103	1,682	2,103	2,103	2,103
			事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	2,203	1,782	2,203	2,203	2,203
			(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 地域の水循環などの視点を取り入れられたい(地元市議会議員)		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)						
		● 把握している	他市の博物館等においても、企画展示を年間1~4件程度開催している。						
		○ 把握していない							

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かさない。事業である。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 展示手法等を工夫することで内容等の充実を図る余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の事務費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者あり・負担あり	説明 企画展示期間の入館者が特定受益者となりうるが、入館料を徴収しており、負担は適正と思われる。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 大規模な特別展等で特別料金を徴収するケースは見られるが、独自の企画展示では、通常の入館料としているところが大半であり、負担水準は公平である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施		
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★ 改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）

実施予定時期		複数分野の学芸員が協力することで企画展示を充実させる。	コストと成果の方向性
次年度（平成24年度）			コストの方向性
			維持
中・長期的（3～5年間）		継続的な手法研究などを積み重ね、成果の向上を図る。	成果の方向性
			向上

★ 課長総括評価（一次評価）

職員 <small>の創意工夫による手づくりの展示を実施し、好評であった。埋没林や歴気楼とのつながりだけでなく、魚津市の自然全体をより広い視点からとらえ、その価値を紹介していければよい。</small>	二次評価の要否
	不要

○低い

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	13201103	部・課・係名等	コード1	09060100	政策体系上の位置付け	コード2	612003	予算科目	コード3	001100504
事務事業名	埋没林博物館ハイビジョンホール映像システム更新事業		部名等	(教育機関)	政策の柱	基4 人と文化を育むまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	ハイビジョン更新事業		課名等	埋没林博物館	政策名	1 明日を担う人づくり		款	10. 教育費	
事業期間	開始年度	平成22年度	終了年度	平成23年度	業務分類	2 生涯学習の推進		項	5. 社会教育費	
実施方法	○ 1. 指定管理者代行		○ 2. アウトソーシング		係名等	管理係		目	4. 埋没林博物館費	
			○ 3. 負担金・補助金		記入者氏名	石須 秀知				
			● 4. 市直営		電話番号	0765-22-1049				
					基本事業名	博物館の充実				

◆事業概要 (どのような事業か) 現在テーマ館2階ホールにおいて、ハイビジョンによる「蟹気楼」の映像を上映中であるが、映像設備の老朽化及び部品の交換が困難なため、22、23年度の2カ年で「蟹気楼」と「魚津の自然」の2本の映像ソフトの制作と汎用性のある映像設備への更新を行う。	単位	実績		計画			
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象 (この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 蟹気楼、魚津市の自然 ハイビジョンシステム	① 撮影日数 ② ③	日	0	16	15	0	0
手段 <平成22年度の主な活動内容> 「蟹気楼」と「魚津の自然」のソフトにかかる映像の撮影 *平成23年度の変更点 ソフト制作(撮影及び編集等)に加え、ハード機器の導入を行う	① 想定撮影項目数に対する達成率 ② ③	%	0	49.40	100.00	0	0
意図 (この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 蟹気楼や魚津の自然を撮影記録し、科学教育の視点と観賞価値に配慮して映像ソフト化し、観客の視聴に供せられる形とする。 ハイビジョンシステムを更新し、画質・音質を改善し、他種機材の接続等が可能な汎用性を備えさせる。	① ソフト製作全体の進捗率 ② ③	%	0.00	69.00	100.00	0.00	0.00
その結果 <施策の目指すがた> 学術的に配慮された内容の映像ソフトを短時間で多人数が観賞できる大型ハイビジョン映像で上映することにより教育的効果が高まる。 美しく見ごたえのあるソフトを上映することで集客効果がある。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からのようなきっかけで始まったか) 現ハイビジョンソフトの内容と現在の学説等との整合性がとれなくなり、かつハイビジョン映像装置が老朽化し交換部品もなくなったため。	財源内訳	①国・県支出金 (千円)	0	0	16,578	0	0
		②地方債 (千円)	0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0
		④一般財源 (千円)	0	4,000	9,865	0	0
		A. 予算(決算)額(①～④の合計) (千円)	0	4,000	26,443	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 映像技術・機材等の高度化、ハイビジョンの普及。	①事務事業に携わる正規職員数 (人)	0	2	2	0	0	0
	②事務事業の年間所要時間 (時間)	0	400	500	0	0	0
	B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	0	1,682	2,103	0	0	0
	事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	0	5,682	28,546	0	0	0
	(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 平成22年3月議会、浜田議員質問 「ソフトは、埋没林博物館シアターでの上映だけでなく、学校への貸出、観光宣伝、動画配信など魚津を紹介するものとして広く目に向けるようにしてはどうか。またハードは、博物館の営業時間外にシアターを市民に貸し出したり、ナイトシアターとして映画の上映をしたり、博物館の枠を超えて市民が観しめるような活動を考えてみてはどうか。」	◆県内他市の実施状況	● 把握している ○ 把握していない	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 県内他市において、市単位で設置する博物館として大型映像の更新にかかる事業実施の情報は無い。				

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 社会教育・生涯学習施設である博物館として、教育的効果を高めるため必要な事業である。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はなし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
あり	説明 ハイビジョン映像の更新により、入館者に対し、魚津の自然を深く理解してもらいやすくなり教育的効果の向上、及び入館者の増加が見込まれる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
あり	説明 観客誘致事業との連携により、当館のPRの向上に寄与する。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 更新事業としては23年度が最終年度であり、予算が確定している。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 現状で適切な人員配分である。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 ハイビジョン映像及びシステムの公開以前の事業であり、特定の受益者は想定されない。
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均	説明 特定受益者が想定されず比較できない。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括		
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性		
<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止		年度
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善		

★改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）

実施予定時期	次年度（平成24年度）	更新事業としては23年度で終了	コストと成果の方向性
			コストの方向性 増加
	中・長期的（3～5年間）	更新事業としては23年度で終了	成果の方向性 向上

★課長総括評価（一次評価）

2か年の事業の1年目として、主として映像の撮影を行った。職員の指導・立会いの下で撮影された映像は、歴気楼や洞杉など魚津市の自然をよく捉えたものとなった。2年目は追加撮影と編集作業を経て映像ソフトを仕上げ、機器の導入も行う。	二次評価の要否 不要
---	---------------

○低い